

地域ケア会議

■ 特徴的な取組

地域包括支援センターが実施する地域ケア会議の取り組みについて市民を対象として報告会を開催

■ 業務上の工夫

地域ケア会議の取り組みを周知するとともに、地域住民による地域の支えあい活動を啓発することを目的とし、全ての市民を対象とした報告会を開催している。

平成28年度は、地域包括支援センターの職員を対象に、地域課題を地域で共有するための手法についての研修を開催するとともに、各センターが地域ケア会議の報告を行い他センターの取り組みを学んだ。

報告の中で選抜された2センターの取り組みを、住民主体サービスの市民講演会に併せて報告を行い、地域ケア会議と住民主体サービスの実施を一体的に啓発した。

また、各地域包括支援センターの取り組みとして、地域ケア会議報告書を作成し、配布した。

平成28年度 地域ケア会議報告書



目次

地域包括支援センターとは.....	2
地域ケア会議とは.....	3
報告書	
① 地域包括支援センターあさひが丘.....	4
② 地域包括支援センター春緑苑.....	6
③ 地域包括支援センターじゃがいも友愛.....	8
④ 春日井市社会福祉協議会地域包括支援センター ...	10
⑤ 春日井市医師会地域包括支援センター	12
⑥ 地域包括支援センターグレイスフル春日井	14
⑦ 地域包括支援センター第2グレイスフル春日井 ...	16
⑧ 地域包括支援センター勝川	18
⑨ 地域包括支援センター第2春緑苑	20
⑩ 春日井市社会福祉協議会地域包括支援センター中切	22



地域包括支援センターとは



市が委託した高齢者に関する相談の窓口です

住み慣れた地域で安心していつまでも暮らし続けることができるよう、個々の状況に応じた保健・医療・福祉サービスや情報提供、関係機関との連絡調整、いろいろな事業の説明など、生活の不安や困りごとへの相談に応じます。



どんな人がいるの？

社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師等の専門職が、様々な相談や悩みをそれぞれの知識を生かしながら、チームとして課題や問題を解決します。

どんなことをしているの？

総合相談 ・ いろいろな相談事を受け付けています

介護予防の支援 ・ 介護予防や健康づくりを支援します

権利擁護 ・ 財産や権利を守ります

地域のネットワークの強化と活用 ・ 暮らしやすい地域を目指します

地域ケア会議 高齢者個人の困り事や、地域の中にある困り事を、地域で暮らす様々な人が集まり、話し合い、課題を共有し、解決策を考えます。

お住まいの地域によって
担当のセンターが決まっています。
担当のセンターが分からない時は、
地域福祉課（85-6187）に
お問い合わせください。

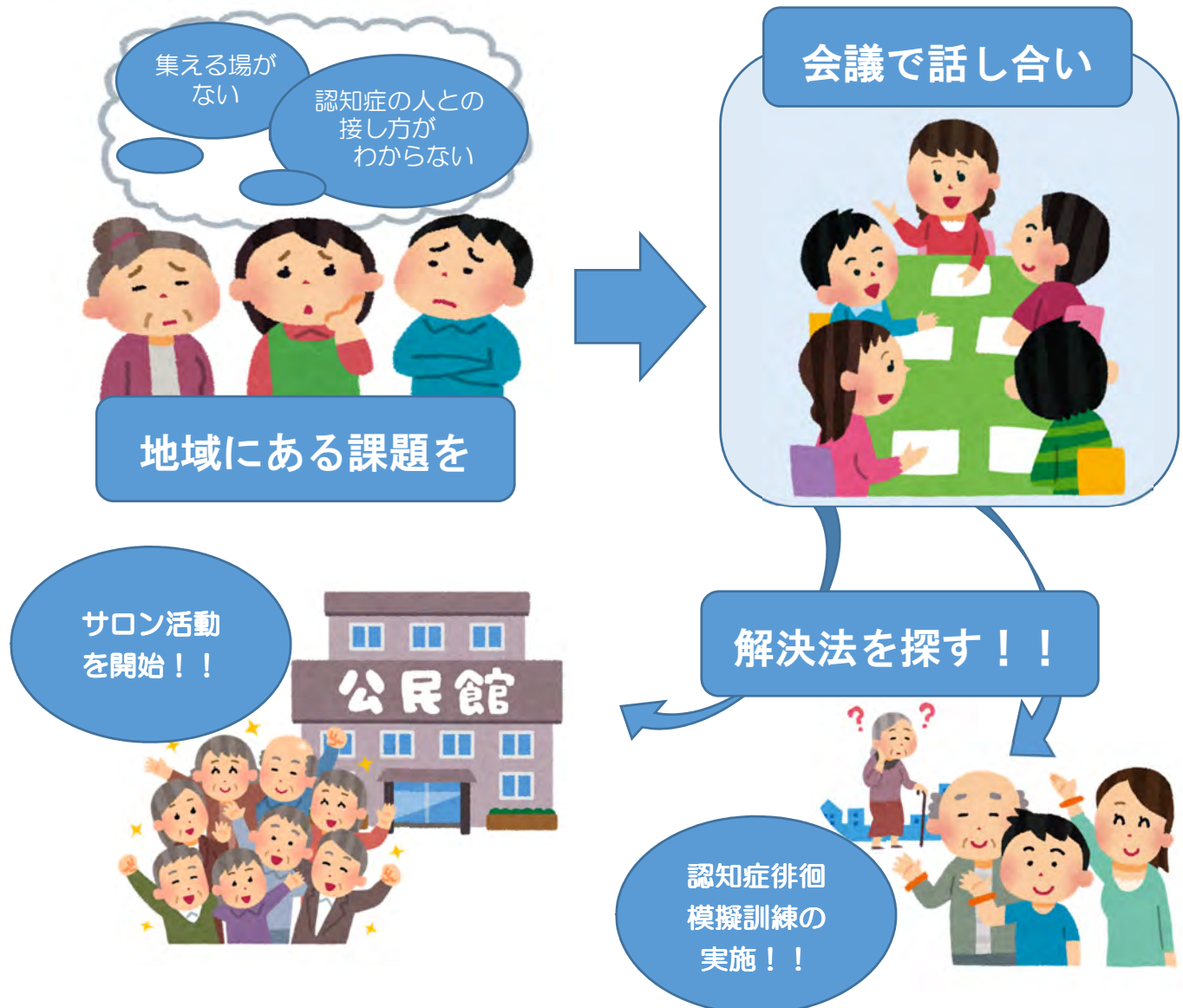


©Kaiyuga City 2009
あひまのまち（あひま）

地域ケア会議とは

地域包括支援センターが開催する高齢者個人の困難な事例などに対する支援を通じ、地域におけるさまざまな資源が連携するネットワークを作り上げていくこと、地域の課題の把握や解決方法を確認することなど、地域における高齢者に対する支援の充実や社会資源の整備を進めるものための会議です。

例えば、



どんな人が参加するの？

地域に住む方のほか、介護事業者、民生委員児童委員、ボランティア団体、町内会などの地域で活動する団体が参加します。

地域包括支援センターあさひが丘

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

5 回

地域ケア会議

4 回

テーマ

住民の主体的な介護予防の場づくり
～坂下区地域における地域ケア会議の取り組み～

1 地域の課題

老人会はあるが、加入者が少なく 60 代の参加があまりない。何らかのきっかけで活動性が低下すると参加を遠慮し、閉じこもりがちになる方がいる。歩いて行ける地域の会場で人との交流の機会を持ち、介護予防にもつながる場所を地域ぐるみで作っていく必要がある。

2 地域の特徴

＜開催地域＞ 坂下区（坂下町 1～4 丁目、6 丁目他近隣）

- ・坂下町全体としては 65 歳以上の人口が約 33%を占めている。前期高齢者（65 歳以上 74 歳未満）の割合が 19%占めていることから、今後急速に 75 歳以上の人口が増加することが見込まれる。
- ・町内にスーパーが 2 店舗あり、買い物や通院などの生活がしやすい。平坦な場所が多く自転車でも移動がしやすい地形。
- ・友人や別居家族との繋がりがあり、見守りや支援を受けられる関係性がある方が多い。
- ・町内に老人保健施設があり、リハビリ専門職による指導助言の協力が得られる。
- ・近隣に入院設備のある回復期病院や入所施設が複数ある。

3 開催状況

＜日程＞

平成 28 年 10 月 12 日（水）

＜会場＞

老人保健施設メディコ春日井 1 階 会議室

＜参加者＞

医師（欠席）、薬剤師（欠席）、歯科医師、老人保健施設（施設役員、リハビリ職）、居宅介護支援事業所（介護支援専門員）、老人会（会長 2 名、役員 3 名）、民生委員（2 名）、新聞店、市議会議員

4 課題に対する地域ケア会議の展開

1、前回の地域ケア会議から今年度取り組んだこと

(1) 坂下和泉お達者クラブの開催協力

①坂下区自治会や老人会等の協力による坂下和泉お達者クラブについての周知。

・自治会の回覧板に開催の案内を入れていただき、住民にお知らせするとともに、老人会でも参加の声かけをしていただいた。

②病院に坂下和泉お達者クラブのチラシを掲示していただく。

(2) 老人保健施設の協力による運動指導や栄養指導と試食会の開催。

・施設を会場としてお借りし、リハビリ器具を用いて運動や測定を行う。また、管理栄養士による「健康な食事のポイント」についてお話しと施設から無償で食事を提供していただき、会食を楽しまれた。

・リハビリ職が2～3か月毎に坂下和泉お達者クラブにきて運動指導。又、リハビリ職が作成、改訂した運動テキストを使い、参加者が主体的に運動に取り組めるよう指導していただいた。

2、今年度の地域ケア会議について

「地域で支える体制づくり」について

～「坂下和泉お達者クラブ」を住民主体の活動とする為に～

①会議の意見

【歯科医】誤嚥性肺炎の予防に嚥下体操や口腔ケアにも取り組むと良い。講師協力可能。

【区長】高齢者が元気だと家族も幸せ。この様な取り組みが良い。

【老人会】閉じこもりがちの方に参加して頂きたいと思う。開催日が他と重ならないよう検討しサロンの取り組みを地域の方々と行っていくと良い。

【新聞店】若い方が地域を支えていく事が大切。40代、50代の団塊ジュニア以降の世代への働きかけの方法（SNS等の活用）の工夫が必要。

【老人会】認知症状が出ている方への声のかけ方接し方が分からない。

【民生委員】高齢者が溝に落ちていた事もあり近所の目は大切。周囲に認知症であることを言いにくい人も多い。

②まとめ

今後住民が主体となって開催していくため、市の制度を案内。坂下和泉お達者クラブに参加している方と相談し引継ぐこととなる。

会議後、老人会（坂下友和会）が市に住民主体のサロンとして申請し、1月から補助制度を活用。

また、認知の症状がある方も安心して参加できるよう、支える体制づくりについて話し合う。実際に認知症が心配な方もあり、人のつながりや気づきの目が大切であることや今後増えていく認知症についての理解を若い世代にも必要であるという意見がでた。

4、今後の展開

・認知症への理解の普及のため、認知症サポーター養成等の開催。

・今後地域を支える若い世代にも周知の工夫をする。



春日井市地域包括支援センター春緑苑

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議	6 回	地域ケア会議	4 回
----------	-----	--------	-----

テーマ

地域参加のきっかけになる場所を作ろう！
～中央台における地域ケア会議の取組み～

1 地域の課題

包括支援センターの職員が相談や調査の為に中央台の高齢者宅に伺うと、地域との関係をほとんど持たずに日々を過ごされている方が、考えていた以上に多く存在していることが分かった。中には地域との関係を持ちたい気持ちもあるが、地域参加のきっかけが無いまま、現在に至っているという方もみえた。

2 地域の特性

＜開催地域＞ 中央台

中央台は既に人口、世帯数とも減少傾向にあり、高齢化率は春日井市の平均より高く、高齢者世帯における単身世帯の割合も春日井市の平均より高い地区である。中央台を中央で東西に分けて考えると、西側地区には大型のショッピングセンターを初めとした、様々な商業店舗が建っており、高蔵寺ニュータウンの商業的な中心地区となっていて、また市民センターや保健センター、郵便局もあり、中央台以外の周辺住民にとっても基幹的な場所として機能している。また UR 都市機構の賃貸物件等も多く立ち並んでいることも特徴と言える。逆に東側地区に目を移すと戸建ての住宅地が並んでいる。中央台地区内には大きな公園は無いが、集会所は住宅管理会社が所管する集会所等が西側地区を中心に点在している。高蔵寺ニュータウンの中心商業地区と言う事もあり、地区内の主要道路沿いにはバス停があり、バスのアクセスは比較的他地区に比べて良いように思われる。

3 開催状況

＜日時＞

平成 28 年 7 月 27 日（水）

＜会場＞

中央台ふれあいセンター（中央台小学校南館 1 階）

＜参加者＞

老人クラブ（会長）、地区民生委員児童委員協議会（会長）、団地自治会（会長）、地区社会福祉協議会（会長）、住宅管理会社、司法書士会、市役所

4 課題に対する地域ケア会議の展開

★議題 『地域参加のきっかけになる場所を具体的にどのように作っていくか』

(1) 今回の会議で出た意見

①運営主体について

- ・運営主体となって新しい参加の場を作るだけの余力が、既存の団体だけでは乏しいかもしれない。
- ・既存の団体の中には加入者が減少している団体もあるため、新しい加入者に繋がる可能性があるこのような企画について、主体は難しいかもしれないが、協力はしたい。
- ・新しく作るというよりは、既存の資源をうまく活用しながら作っていくと良いかもしれない。
- ・ニュータウン内の賃貸物件には大学の学生の居住も増えており、大学も学びの一貫として地域行事への参加を促進しているが、彼らの力を借りて参加の場を作ることはできないか。
- ・既存の団体が運営主体だと、その団体に入らないといけないなどの意識が働き、足が遠のく可能性もある。学生主催という感じであれば、そういう意識は働かず、全く地域参加をしていない人も気軽に来れるのではないか。

②活動場所について

- ・住宅管理会社が所管する集会場は、高齢者が集まる場所として使用するにはトイレが使用しにくい形状だったり、会議用で床が固かったりと環境面で難しい部分が見られる。小学校の空き教室などの活用も考えられるが、分りやすい場所、アクセスの良い場所を考えると、商業地区の店舗内の会議室などを使用するのも方法の1つかもしれない。

③活動内容について

- ・興味を引く内容でなければなかなか足を運んでももらえない為、地域参加をしていない人でも、興味を持ってかつ気軽に来れる内容を、今後検討していく必要がある。

④運営財源について

- ・節約すれば必要な経費は少なくすむと思われる。継続的に行うには公的な補助に頼らず、参加者に少し参加費を負担してもらい、その中で経費を賄えると一番良い。それでもどうしても足りなければ、補助金制度等の活用も検討する。

⑤広報について

- ・地域参加をしていない人へのアクセスは既存団体ではなかなか難しいため、そういう方にアクセスしている民生委員や包括支援センターが、この活動の周知に日常的に関われると良い。

(2) 今後の展開

- ・大学に中央台地域ケア会議の内容を紹介し、活動に対して協力が可能かどうか検討頂き、また学生の予定が合えば地域ケア会議にも参加をしてもらう。
- ・その他、活動場所等の検討事項は今後の地域ケア会議において煮詰めていく。



春日井市地域包括支援センターじゃがいも友愛

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

7 回

地域ケア会議

3 回

テーマ

増え続ける認知症高齢者と離れて暮らす家族
～岩成台地域における個別地域ケア会議の取組み～

1 地域の課題

地域の中で一人暮らしをする高齢者や高齢者のみの世帯が増えてきている。子が独立して遠方に住むようになったことも原因のひとつである。認知症などで介護が必要になると、遠方に住む家族が介護者となることも多いが、近隣住民の助けも必要となる。しかし、家族と近隣住民は接する機会がほとんどない。家族、近隣住民がそれぞれの思いや介護の実際について共有し、協力しながら介護できる関係づくりが必要である。

2 地域の特性

<開催地域> 岩成台

65 歳以上の人口が地域の総人口の約 30.7% (75 歳以上高齢者の割合は総人口の約 12.9%) と高く、要支援・要介護者が増える傾向にある。

地域で長く暮らしている方が多く、近所にだれが住んでいるかは理解されている。

広い敷地に整備の行き届いた庭が点在する美しい住宅地と、大規模な団地住宅が隣り合っている地域である。

昭和 40 年代に開発されたニュータウンに位置しているため、地元出身者は少ない。

3 開催状況

<日時>

平成 28 年 10 月 25 日 (火)

<会場>

(株)総合福祉サービス J・You 1 階会議室

<参加者>

個別地域ケア会議

主介護者 (長女)、民生委員、介護支援専門員、市地域福祉課、地域包括支援センター

4 課題に対する地域ケア会議の展開

＜個別地域ケア会議を開催するに至った背景＞

敷地の広い住宅で独居となり、本人だけでは管理ができないため、庭の樹木が近所の庭先へ伸びてしまい、また、その庭に猫が入り込み、糞尿のにおいについて近隣から苦情が出ている。

○会議での意見

【介護者】市内に住んでいるので仕事の合間に訪問している。介護サービスを利用してはいるが、広い庭は手が付けられず、隣に侵入している枝などは少し切っているが、迷惑をかけていないかいつも心配している。

【介護支援専門員】本人は高齢で、昨年夫と死別され、一人暮らし。少し判断能力も低下している様子。介護保険で食事の確保、居室の清潔は保っているが、他は長女に頼っている状況。

【民生委員】一人暮らしの方が増えている。庭の手入れなどは造園業者と契約し定期的に庭師が入っているところが多いと聞いている。隣に枝が侵入していることが心配とのことについて、民生委員が同行して隣宅を訪問して、顔の見える関係を作り、離れて生活している娘さんの存在が近隣住民にわかれば、きっと安心されると思う。

【地域福祉課】個人所有の庭については本人の判断での自助が基本だが、近隣住民と離れて暮らす家族との顔の見える関係ができれば、地域との新しい関係が芽生えると思う。

○会議での意見

【民生委員】野良猫に去勢をして繁殖を防いだり、子猫の里親を探したりをボランティアでおこなっている方がいて、民生委員仲間で応援している。子猫などは予防注射だけ負担すれば里親をきっと見つけてもらえると思う。今は猫ブームだから心配ない。

＜まとめ＞

その地域で暮らしている方々は、それぞれが挨拶し合う関係はできているが、離れて暮らす家族の認識はほとんどない。近隣住民は「隣に高齢の方が一人で住んでいる、無事で過ごしているかどうか、とても心配だ」と思っている。離れて暮らす家族は「近隣にいろいろご迷惑をかけているのでは」と思っている。近隣住民と離れて暮らすご家族が顔の見える関係を作っていける第1歩が確認できた。

出席された長女は「地域の情報や人のつながりを教えていただきほっとしました。当初は個別地域ケア会議と聞いて何か皆さんから注意を受けるのかと心配でした。子猫のことも安心しました。ありがとうございました」と、笑顔で話された。

＜今後の圏域の地域ケア会議に向けて＞

今回の個別地域ケア会議を通して、離れて暮らす家族と、地域の方々と顔の見える関係ができれば、トラブルになる前に連絡を取り合うことができたり、家族の心配事が軽減されたりすることが見えてきた。他の個別地域ケア会議で取り上げた事例でも、認知症高齢者のみの世帯で、離れている家族と近隣住民の関係作りを模索している例もあった。これらのことから、岩成台の地域の課題として、認知症高齢者の離れて暮らす家族と近隣住民の協力関係をいかに作るか、ということが浮かび上がった。

今後、岩成台地域ケア会議の議題として「認知症高齢者・離れて暮らす家族・地域の方の連携（仮）」を計画し、地域ケア個別会議から圏域の地域ケア会議へと繋げていきたい。

春日井市社会福祉協議会地域包括支援センター

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

6 回

地域ケア会議

2 回

テーマ

住み慣れた地域で暮らし続けるために
～不二ガ丘地区における地域ケア会議の取組み～

1 地域の課題

一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増加しており、将来への健康不安を感じている人が多い。また、ちょっとした日常の困りごとを頼むことができる場、誰でも気軽に参加できる場があると良い。

2 地域の特性

<開催地域> 不二ガ丘

- ・昭和 40 年代から新興住宅地として人口が増え始め、現在は 70・80 代の高齢者が多く、高齢化率 31.4%となり、今後も高齢化率の増加が推察されている。
- ・1 丁目から 3 丁目まで民生委員が一人ずつおり、不二ガ丘区町内会・老人会・地区社会福祉協議会がサロン会等活発な活動を展開する中、2011 年より「不二ガ丘見守りネットワーク」の取組みも展開されている。
- ・近くに大学があり下宿生が多く、通学路になっている。病院送迎バスが通っている。
- ・医療機関が少なく（小児科・歯科のみ）、徒歩圏内にスーパーがない（コンビニのみ）。
- ・居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所がない。

3 開催状況

昨年度不二ガ丘地区で第 1 回目地域ケア会議を開催し顔合わせ、情報の共有を行った。昨年度に引き続き、今年度は 2 回開催した。

<日時>

- ①平成 28 年 4 月 13 日（水）
- ②平成 28 年 6 月 17 日（金）

<会場>

不二ガ丘ふれあいの家

<参加者>

理学療法士 介護サービス事業所 町内会区長（当日欠席） 社会福祉協議会
地区社会福祉協議会副会長 民生委員 3 名 老人会会長
大学 NPO ボランティアセンター学生 2 名（今年度より参加）



4 課題に対する地域ケア会議の展開

①第1回目会議

昨年度開催した会議での情報や意見から、現状の把握を行い課題を導きだすことにした。

- ・「身体的なこと」「運転免許証の返納」「一人暮らし」「病気になった時」「妻が寝込んだ時」など、食材の買物や調理に困ることがある。

妻に任せていて自分で買物をしたことがない男性も多い、いざという時に子どもや身内などの支援が受けられないことがある、近くにスーパーマーケットがない。

満足感を考えると、自分の目で見て買物したい。遠くにしか店がない。(町内にはコンビニ1件のみしかない)

- ・移動スーパーの紹介提案

「ここまでは必要ないかも」

「買物ツアーの方がいい」

「循環バスがあるといい」

この中からから、アンケート

をとってみてはと意見が出た。

老人会：相互扶助、精神面も含めたアンケートの作成を検討し、実施してみたい。

理学療法士：健康づくりについてのデータを取っているので出来ることは協力する。

民生委員：一人暮らし高齢者調査にあわせて、買物等

についてのアンケートを取ってみてはどうか、協力できる

大学生ボランティア：初めて地域ケア会議に参加した。

協力出来ることがあると思う、ぜひ声をかけて欲しい。

- ・次回地域ケア会議までに老人会と民生委員の協力のもとアンケートを作成、実施することになった。



②第2回目会議

- ・老人会アンケート結果：「自分や家族の健康が心配 25%」「力仕事が困難 20%」「庭の手入れ 18%」「高所の物が取れない 18%」「買物が困難 9 %」(44 名集計)

- ・民生委員の一人暮らし調査時のアンケート結果：現状の買い物に満足 71.8% 困っている 20.5% 何らかのかたちで買い物できている人が多い。(39 名集計)

春日井市社会福祉協議会より：ちょっとお助け事業の紹介。協力者の高齢化に伴い登録を取り下げる方もいるため、協力者の登録数を増やして事業を活発にしたい。

大学生ボランティアより：不二ガ丘地域での清掃ボランティア等、活動内容の報告と冊子配布。イベント企画等も行っており、具体的な活動案、依頼があれば協力する。

まとめ・今後の展開

- ・参加者が各々の立場での情報や意見を出し合っていく中で、自発的にアンケートを実施することになり、高齢者が抱える新たなニーズの抽出と把握をすることができた。
- ・関係機関に働きかけ、顔の見える関係づくりができたことで、12月に老人会で病院看護師による健康講座が開催され、2月には地区社協サロン会で病院、大学生ボランティア、サービス事業所が協力し介護予防教室を開催することが決定した。
- ・地域ケア会議を通しネットワークを構築することができ、更なる拡充を目指したい。

春日井市医師会地域包括支援センター

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議	7 回	地域ケア会議	2 回
----------	-----	--------	-----

テーマ

地域の繋がりが希薄な町で高齢者の孤立を防ぐには
～朝宮町における地域ケア会議の取り組み～

1 地域の課題

認知症がかなり進行した状態になって、ようやく包括に相談が入った一人暮らし高齢者の事例があった。朝宮町は賃貸住宅が多く、住民の入れ替わりが常にあり、町内会加入率が低いことから、地域の繋がりが希薄な面がある。高齢化率は低いですが、今後、高齢化が進むにつれ、高齢者の孤立が心配される。

2 地域の特性

＜開催地域＞ 朝宮町

朝宮町は人口約 3800 人、1450 世帯の町で、一丁目の北側は古くから住む住民が多い。二丁目・三丁目は昭和 40 年代後半の区画整理で戸建て住宅が建ち始めた。その後、空き地や畑に低層の賃貸住宅が多く建ったため、住民の入れ替わりが常にある。

町内会加入率が約 25%と低い。子供会があるが、入会者が少ない。

高齢化率は約 13.0%と春日井市全体の平均と比べて 10%ほど低い。高齢者が少ないため、他の町と比べて地域包括支援センターへの相談件数が少ない。

スーパーや医療機関が町内に揃っており、生活に便利。名鉄やシティバスで勝川駅、市役所、市民病院に行くことができる。朝宮公園がある。

自治区は「八田朝宮区」で八田町と朝宮町全域を含む。盆踊りや敬老会等の行事は八田町内の場所で実施。地区社協が「さくらサロン八田朝宮」を月 1 回、八田公民館で実施。朝宮町内の場所で開催されるサロンや老人会の集まりが無い。

3 開催状況

＜日程＞① 平成 28 年 2 月 4 日（木） ② 平成 28 年 6 月 30 日（木）

＜会場＞①② 朝宮ふれあいの家

＜参加者＞

- ① 医師、歯科医師、薬剤師、在宅医療サポートセンター（2 名）、介護支援専門員、八田朝宮区（区長・副区長）、地区社会福祉協議会（会長）、民生委員、市議会議員
- ② 医師、薬剤師、在宅医療サポートセンター、介護支援専門員、八田朝宮区（区長、前区長）、地区社会福祉協議会（前会長）、サロン協力員、民生委員（2 名）、春日井市役所地域福祉課

4 課題に対する地域ケア会議の展開

1 第1回会議

(1) 会議の意見

【区長】朝宮公園や朝宮ふれあいの家、神社の集会場を介護予防に活用出来ると良い。

【副区長】朝宮町にはイベント協力隊がいるが、転勤等で人数が少なくなってしまった。朝宮ふれあいの家で七草粥を行うと、沢山の人が集まる。

【民生委員】行事やサロンは八田町で行うため、そこまで行けない高齢者がいる。

【市議会議員】町内会加入率が低いこと、老人会が無いことが課題。

【医師】共働き家庭は町内会の役が回ってくるのが負担で入会に躊躇するのでは。

【歯科医師】防犯灯や祭りの費用を町内会が負担していることを知らない人が多い。

【介護支援専門員】介護サービスを利用していない高齢者に対して、近所の見守り等があると良いが、住民はどこまで関われば良いか困ることもあると思う。

(2) まとめ

地域ケア会議を開催したことで「朝宮町を隣近所の顔が見える町にしたい」「町内に老人会や集まりの場ができると良い」等、参加者が今よりも地域の繋がりを強くしたいという思いを抱いていることが分かり、話し合いを継続することとした。

2 第2回会議

(1) 会議の意見

【民生委員】朝宮町の中で高齢者が集って活動できる場があると良い。

【地区社協】実施にはボランティアや多少のお金が必要。地区社協のサロンを増やすことは難しいが、地域住民で団体を作って活動することはできるのではないかな。

【前区長】サロンの補助額は年々減額されている。協力者や後ろ盾が無いと立ち上げる側としては心配。

【地域包括支援センター】どれくらいの高齢者が集まるか、まずはニーズを把握するため、町と地域包括支援センターの共催で介護予防教室を開催してみてもどうか。

【介護支援専門員】回覧板が回らない世帯が多いので、周知方法の工夫が必要。

【医師】住民の力だけで集まりの場を作っていくことが理想だが、行政の支援も必要ではないかな。ボランティアだけでは難しいこともある。

【地域福祉課】集まりの立ち上げに介護予防講師派遣事業を活用してみてもどうか。

【区長】教室の内容はどうするのか？開催は他に行事が無い11月初旬が良い。

(2) まとめ

会議後に区長や地区社協、民生委員等の関係者と打ち合わせを行い、11月17日に介護予防教室（健康体操）を開催することになった。

3 今後の展開

「将来の町や自分自身のために集いの場を作りたい」という民生委員や協力者の呼び掛けもあり、介護予防教室の当日は20名の高齢者の参加があった。アンケートの結果、全員が「定期開催があれば参加したい」と回答したため、今後は集まりの場の立ち上げについて話し合いを行う予定。立ち上げ後は、活動の継続支援が課題となる。



春日井市地域包括支援センターグレイスフル春日井

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

14 回

地域ケア会議

3 回

テーマ

認知症を患った高齢者への支援 ～薬剤師を中心とした連携～

1 地域の課題

独居で認知症を患っている高齢者への支援は生活実態の見えにくさが伴う。東野地区（東野町・東野町西）にはこのケースが多く、とりわけ医療面は把握しにくく、「地域課題としての医療連携」が問われている。

2 地域の特性

<開催地域> 東野町、東野町西

- ・東名高速の西、落合公園の南西、国道 19 号線と県道 196 号線の上に位置する。その間を県道 451 号線と緑道が貫いている。
- ・大型商業施設、金融機関、医療機関、介護事業所が比較的揃っている。
- ・国道 19 号線に出やすいため、名古屋や岐阜へ通勤している世帯も多い。
- ・東野町 6,175 人、うち 65 歳以上 1,518 人（高齢化率 24.8%）、東野町西 3,288 人、うち 65 歳以上 823 人（高齢化率 25.03%）。*H28 年 10 月 1 日現在
- ・県営松原住宅、市営東野住宅、市営西島団地、雇用促進住宅などの公設住宅がある。
- ・東野ネットワークなどの住民による見守り体制があり、自治意識が比較的高い。
- ・社会資源が揃っている反面、「今は何とか生活できている独居高齢者」が目立つ。

3 開催状況

<日程>

平成 28 年 7 月 22 日（金）

<会場>

特別養護老人ホームグレイスフル春日井 1 階 介護者教育室

<参加者>

調剤薬局（3ヶ所3名：薬剤師）、東野地区社会福祉協議会、東野地区民生委員、訪問看護ステーション管理者、居宅介護支援事業所（2ヶ所2名：ケアマネジャー）、通所介護事業所管理者、春日井市地域福祉課（2名）

4 課題に対する地域ケア会議の展開

【会議で明らかになった地域課題と対応策】

- ① 認知症独居高齢者の生活実態は見えづらい。まして医療面においては、本人に病識がなかったり、家族が受診を促すなどの説得を試みても応じてもらえないことが多い。何を訊いても「自分はまだまだ大丈夫」と応える方も多い。

⇒ 支援に関わっている専門職がさまざまな角度で積極的にアプローチし、診察や福祉サービス利用へ少しずつ繋いでいく。

- ② 薬剤師（薬局）はこれまでも、地域住民の身近な医療窓口として、さまざまな悩み事に応じてきたが、介護保険事業者とかかわることが少なかった。介護保険事業者からすると、医療関係者へどうしても連絡しづらい意識があり、まずは担当ケアマネジャーへ報告する、という慣習になっており、双方がかかわる機会がなかなか無かった。

⇒ 今回の地域ケア会議を通して、お互いが普段の支援でどのような事を考えているのかが分かった。認知症独居高齢者への支援は、まさに医療連携の在り方が問われる。地域ケア会議の目的の一つでもある、「関係者間のネットワーク構築」を図ることもでき、今後もこのような参加機会を通じて連携が深まると、支援の幅も広がるだろう。

- ③ 「かかりつけ薬剤師」という制度が本格化したが、十分に活用されていない面がある。同意を取る必要があるのみで、ハードル自体は低く、認知症独居高齢者の支援として有効であるが、なかなか広まっていない。

⇒ 介護保険事業者が意識して、どこの薬局を利用しているかを把握し、気になることがあれば気軽に問い合わせしていく。かかりつけ薬剤師を周知し、高齢者に活用して頂けるよう努めたい。

（その後の展開と今後）

今回の地域ケア会議を受けて、11月下旬に、同地区に住む認知症独居高齢者にかかる個別ケア会議を開催した。そこでも、ここで示した同じ課題が浮き上がった。しかし地域住民の協力、各専門職の支援が実り、各種サービスへと繋げることができた。事前に地域課題を共有、把握していたからこそ、円滑な対応ができたといえる。

独居の認知症高齢者にかかわる困難性は、多岐に渡るが、医療連携は最も先鋭されるうちのひとつである。「地域課題としての医療連携」は日常生活圏域全体にかかわる内容であり、どの切り口からも言及しうるテーマでもある。引き続き、地域ケア会議で取り上げていきたい。

地域包括支援センター第2 グレイスフル春日井

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

4 回

地域ケア会議

6 回

テーマ

地域の力をより強くするため、さらなる連携強化
～牛山区でずっと、その人らしく～

1 地域の課題

代々この地域で暮らす人が多く、大型集合住宅が少ないことから、町内会の加入率なども非常に高く、区や地区社協、老人会など様々な活動が活発である。しかし、そうしたコミュニティから外れてしまうと途端に周囲の目が行き届きにくくなる。

2 地域の特性

＜開催地域＞ 牛山町、新開町（牛山区）

- ・人口 6,483 人 65 歳以上人口 2,231 人 高齢化率 34.4%
- ・町内会加入率 77.3%
- ・地区社協 サロン活動など非常に活発
- ・老人会 5 クラブあり、会員数は合計で 517 名 それぞれ活発に活動中
- ・商業施設が少なく、交通手段が乏しいことから、買い物が難しいとの意見が多く、『移動スーパーマーケット道風くん』が週に 2 回、地域を回り、買い物の困難さが解消されると共にコミュニケーションの場にもなっている。

田畑の広がるのどかな地域。地域内に特別養護老人ホームと大型デイサービスなどあり。大型集合住宅は少なく、地域住民同士のつながりは強い地域である。

3 開催状況

＜日程＞

平成 28 年 10 月 26 日（水）

＜会場＞

特別養護老人ホーム 第2 グレイスフル春日井
地域交流センター

＜参加者＞

医師、薬剤師、介護サービス事業所、
区長、地区社会福祉協議会（会長）、
民生委員 7 名、
雇用促進住宅管理人（欠席）



4 課題に対する地域ケア会議の展開

急に自宅での生活が継続できなくなったケースが短期間に相次いだ為、地域ケア会議を開催し、地域課題を見つめなおし、共有する事とした。

【事例紹介・事例に対する意見】

事例 A：64 歳男性 家賃滞納が続き集合住宅からの退去を迫られていたが、精神疾患（疑い）のため、そのことが理解できず、警察が出動するに至ったケース

意見①ルールに沿って支援する。必要に応じて専門医に受診できると良い。

意見②家賃の滞納はもっと早く確認・対応が出来なかったのか。

この住宅は新しい入居者の募集はない、入居者の減少と高齢化が見込まれる。

事例 B：76 歳女性 知的障がい（疑い）があり、同居人の男性と生活していたが、同居人の男性が救急搬送されたため、突然在宅での生活が継続できなくなったケース

意見①内縁と同居人との線引きが難しい。養護の義務や書類へのサインが出来るのか。

意見②住民票が春日井市にない場合は、支援は誰がするのか。

事例 C：78 歳女性 金銭面の支援が必要であるにも関わらず、本人が拒否し続け、家賃滞納が続き、大家から退去を迫られたケース

意見①本人が支援を望むまでは、積極的な介入は難しいのではないかと。

【事例を通して見えた課題】

個別の課題：本人の自己決定の能力とその尊重、現実的に必要な支援との解離。

→関係者からの支援を拒否するが、近所の方に少額の借金を繰り返してしまう。

→受診していない為、適切な治療につながっていない。本人に病識がない。

地域の課題：家賃の滞納に早期に発見・対応できる社会資源や繋がりが弱かった。

生活保護を受けるという事に対して心理面のハードルが高い。

社会的課題：包括の支援対象者が基本的には 65 歳以上であり、担当エリアがある。

→64 歳だと独居でも、基本的には民生委員や地域包括支援センターの支援がまだ開始されない年齢であり、関わりが持てていなかった。

→居所と住所地が異なると、公的支援が行き届きにくい。

社会的課題：生活保護を受ける必要性が客観的にあっても、申請主義である。また、医療においても自ら受診の意向がなければ、診断や治療の機会が持てない。

【今後に向けての取り組み】

○制度の隙間で支援を必要とする方に対して、多機関で支援、連携を行う際に中心となる支援者を明確にし、情報収集と共有を的確に行う。

○かかりつけ医を持つことを啓発し、早期病院受診を促し、医療との連携をより強める。

○多様な背景、価値観、ライフスタイルの高齢者が暮らしていることを、地域の中で受け入れ、地域のつながりが強い現状に甘んじることなく、お互いにもう少し「おせっかい」なぐらいの関係性を今一度構築することで、より良いその人らしい地域での生活が継続できるよう支援していく。

春日井市地域包括支援センター勝川

平成 28 年（4 月～12 月開催） 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

9 回

地域ケア会議

2 回

テーマ

「健康に過ごすために地域でできることを考える」
～角崎町・大和通の地域ケア会議より～

1 地域の課題

老人会がなく集いの場もないことから、ご近所間で顔見知りの関係を作るきっかけを持ちにくい。若い世代の人口が増加し高齢者との間に隔たりができ、近所付き合いも減少している。

2 地域の特性

<開催地域> 角崎町・大和通

勝川駅の北側に位置し賑わいのある地域で、銀行、薬局、飲食店など商店が多く立ち並ぶ。電車やバス等の交通網も発達しており、名古屋へのアクセスもよい。スーパーやコンビニはそれぞれ3カ所ずつあり、買い物は車を使用しなくても自転車や徒歩で利用できる。開業医は充実しており、勝川駅周辺には20カ所ほどの病院がある。喫茶店は少なく1カ所しかない。近くには勝川駅前商店街があり第3土曜日には歩行者天国「弘法市まつり」が開催され多くの人で賑わう。マンションが増え若い世代の転入が多く、生産者人口の増加が著しい。国道19号バイパスの開通により町内が分断され老人会は消滅した。国道19号を横断するには歩行距離が長く、高齢者にとっては負担も大きい。高齢化率は15～19%と低い、要介護認定率は春日井市全体の16%に比べ22～24%と高い。

3 開催状況

<日程>

①平成27年5月21日（金） ②平成28年12月21日（水）

<会場>

①② 勝川中部学習等供用施設

<参加者>

①薬剤師、看護師、介護支援専門員、デイサービス管理者、区長（3名）、
町内会長、民生委員（8名）老人会長（3名）地区社会福祉協議会、NPO法人
②医師、薬剤師、理学療法士、介護支援専門員、デイサービス管理者
町内会長、民生委員、地域住民

4 課題に対する地域ケア会議の展開

《第1回会議》

- ・町内会加入率が低くなっているが、町内会に入らないと災害時救助できない。
- ・サロンなどで住民が集う場所があると良いが協力員がいない。
- ・閉じこもりがちな人は本人が発信しないと地域でも発見できず、どうやってキャッチするかが課題だと思う。また専門職と地域が情報を共有することが重要で、高齢者だけでなく町全体で考えていかなければいけない。

《第2回会議》

【民生委員】角崎町と大和通には老人会がない。昔はお互い顔見知りが多かったが、新しくマンションが建ち若い世代が流入したこともあり近所付き合いは減少した。町内会の行事は、子供中心の行事が多く高齢者はあまり参加しない。世代間での交流の機会はない。地域で気軽に集まれる場所があるとよい。

【住民】日頃から介護予防に取り組むことは大切であり必要だと実感している。運動するだけであればフィットネスクラブやジムに行けばできる。しかし経済的な事情で、運動をしたくてもできず、引きこもっている人も多いのではないかな。

【薬剤師】運動教室を行った場合、家に閉じこもっている人をどの様に参加してもらうのが重要。町内会で費用を負担できないかな。

【町内会長】町内会未加入者の費用を負担するのは難しい。チラシを配ることは可能。

【デイサービス管理者】「デイサービスを利用したい」との相談があったが介護認定がない住民だった。こういったニーズが増えているのではないかな。

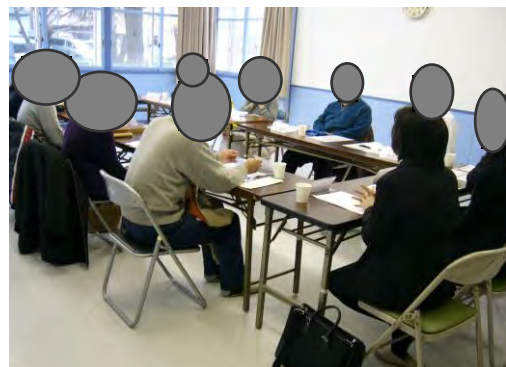
【介護支援専門員】介護サービス利用者は居場所がデイサービスに行くしかない人もおり、どうにかして認定を取ってデイサービスに行っている人もいる。

【住民】地域で気軽にできる運動教室がほしい。出来ることは協力したい。

【理学療法士】居場所づくりのきっかけは、費用のコストが一番かからない運動がよい。運動教室に参加することで介護予防だけではなく、外出する頻度が増え、顔なじみになるなどの波及効果がある。

《まとめ》

- ・介護予防の運動教室「さぼてん教室」を実施することが決定した。
- ・リーダーを選出することができた。
- ・場所を確保することができた。
- ・周知方法が決定した。



《今後の展開》

「さぼてん教室」の開催をきっかけとして、さらに高齢者が気軽に集える茶話会や趣味活動の場ができ、継続し地域に定着させたい。そのためには地域住民の協力が不可欠で、商業施設、医療機関が充実しているという地域の特性を活かし、情報発信の協力を得ることで幅広い世代に周知し理解を得ていく。

春日井市地域包括支援センター第2春緑苑

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

29 回

地域ケア会議

3 回

テーマ

社会資源の領域から地域課題を考える
～上条地域における地域ケア会議の取り組み～

1 地域の課題

上条地区は人口が 1 万を超える担当地域内最大地区でありながら、高齢者にとって必要不可欠なバスの本数が少なく医療機関が少ない。また食糧品・日用品を購入できる店のある場所が偏っているため生活するにあたり不便である。

2 地域の特性

＜開催地域＞ 上条町

人口：10,494 人 65 歳以上の人口：2,302 人 高齢化率：21.9% (H28.10.1)

春日井市の中南部に位置し、1 丁目から 10 丁目まで存在する。

春日井駅を挟み南北での交流がない。

東側に庄内川、西側に王子製紙が立地している。

春日井駅周辺にはアパート・マンションの集合住宅が多く、離れるにつれて一戸建ての割合が高くなる。

人口の割に医療・福祉の社会資源が少ない。

当センターエリア内人口の 37%を占める最大地域となっている。

3 開催状況

＜開催日＞

平成 28 年 10 月 14 日 (金)

＜開催場所＞

特別養護老人ホーム第 2 春緑苑 地域交流センター

＜参加者＞

薬剤師、サービス事業所（取締役 統括責任者）、施設（施設長）

特別養護老人ホーム（施設長 副施設長）、介護サービス事業所（課長）

ホームヘルパー（係長）、介護支援専門員（8 名）、町内会（区長）、老人会（会長）

民生委員（8 名）、ふれあいサロン、寺（副住職） 計 33 名

4 課題に対する地域ケア会議の展開

地域に認知症徘徊者が増えてきたことから、平成 26 年度に「認知症徘徊者の対応」をテーマに開催し、「認知症徘徊ネットワーク」を構築。翌年度には同じく地域内で頻発した「孤独死問題」をテーマに開催しネットワークの強化へと繋がってきた。

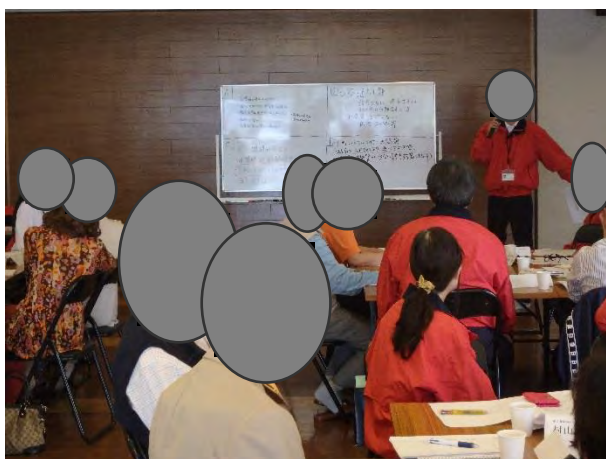
今回はあえてテーマを絞るのではなく、住民自身に上条地区の抱える問題と、その対策を考え、自由に話しあう場として開催。

<会議の進行>

1. それぞれのグループでまず上条町が抱える問題は何かを自由に考えていただく。
2. 各グループで出された様々な問題の中でどの問題が解決すべき重大な問題なのか、またその理由を発表。
3. 2 で出た問題をどうすれば軽減・解決できるかを話し合う。
4. 幅広い対策案を出してもらい問題解決までのストーリーを発表。

ほとんどのグループに共通していたことは…

- ・町内会の加入率が低い。
- ・交通の便が悪い。(ハートフルライナーも含め)
- ・道路が狭い。
- ・病院、特に内科が少ない。
- ・食糧品を購入できる店が北西部に偏っていて 2 軒しかない。
- ・上条町内に気軽にに行ける相談所がない。



<まとめ>

平成 28 年 10 月 29 日に春日井駅が新しくなり、南北を往来できるようになった。このことにより、今まで交流がなかったがこれを機に交流できるようになることが期待できる。今回の地域ケア会議では高齢者に特化せず生活全般を支える地域環境上の多様な問題が挙げられた。地域の問題は高齢者の問題だけではなく、地域の住民・各組織と広く協働していける事を再確認できた。

今後包括としては引き続き、老人会・地区社協・サロンへ等の活動に積極的に協力し、もっと身近な相談所として機能していきます。

春日井市社会福祉協議会地域包括支援センター中切

平成 28 年(4 月～12 月開催) 地域ケア会議の開催

地域ケア個別会議

14 回

地域ケア会議

7 回

テーマ

二子町をさらに住みやすい地域にするために
～二子町における地域ケア会議の取組み～

1 地域の課題

＜個別課題＞身寄りがない人が多い・買い物が不便・一人歩き（認知症）

＜地域の状況＞他地域より高齢化率が 28%と高い。老人クラブは活発に活動しているが、参加者は決まったメンバーが多く地域とのつながりを持たない方がいる。

2 地域の特性

＜開催地域＞ 二子町（二子町は、1969 年 春日井市味美中新町・味美花長町・味美白山町の各一部により、同市二子町として成立。）

人口…総数 1,532 人、高齢化率 28.07%、40 歳代と 70 歳代の人口が多い

交通網…国道 302 号線、愛知県道 102 号名古屋犬山線、名古屋鉄道小牧線、町内南側は名古屋市北区に隣接、シティーバスあり

生活関連施設…病院 2 か所・薬局 2 か所・郵便局 1 か所・金融機関 1 か所・喫茶店 2 か所・コンビニ 1 か所がある。徒歩圏域にスーパーがない

二子山古墳、白山神社、天台宗日輪寺がある

住まい…昔ながらの借家と新しい家・マンションが混在

集いの場…白山神社の「五の市」、老人クラブ、喫茶店

3 開催状況

＜日時＞①平成 28 年 7 月 28 日（木） ②平成 28 年 8 月 25 日（木）

③平成 28 年 10 月 26 日（水）

＜会場＞①～③二子学習等供用施設

＜参加者＞

①医師（当日欠席）、薬剤師、介護支援専門員（当日欠席）

理学療法士（当日欠席）、区長、民生委員 4 名、老人クラブ会長（当日欠席）

②医師（当日欠席）、薬剤師、介護支援専門員、理学療法士（当日欠席）

区長、民生委員 4 名、老人クラブ会長

③医師（当日欠席）、薬剤師、介護支援専門員、理学療法士（当日欠席）

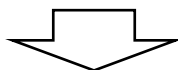
区長、民生委員 4 名、老人クラブ会長

4 課題に対する地域ケア会議の展開

【平成 27 年度の地域ケア会議の中で…】

医師・薬剤師・民生委員からは、「筋力を維持し転倒予防をすることが大切。高齢者が更に増加するため『地域づくり』が必要。」

地元の新聞店からは、『み・まも～る』に登録して急変時に備えて欲しい。」
と言った意見が出ていた。



平成 28 年度テーマ：『さらに住みやすい地域にするために』

【1 回目の地域ケア会議】

＜現状・課題共有＞

どの集まりにも参加しようとしないうる人どう声をかけたら良いか。

⇒「老人会や地域行事が活発で、声を掛けあってモーニングやランチを楽しむ元気高齢者が多い」という『強み』を生かした取り組みはないかと考えた結果、

「誰でも気軽に参加できる集いが地域にあると良い」という意見でまとまった。

【2 回目の地域ケア会議】

＜具体的取り組み内容の検討＞

地域行事に参加しない方も、食べながら飲みながらであれば関心を持つのではないか。

⇒わがまち健康教室 in 二子町開催決定

内容：①薬と健康 ②宅配弁当の試食会 ③地域包括支援センターの周知

周知方法：医療と福祉と地域住民が協働して地域住民へ参加を呼び掛ける

→回覧板の活用・敬老会でのアナウンス

【3 回目の地域ケア会議】

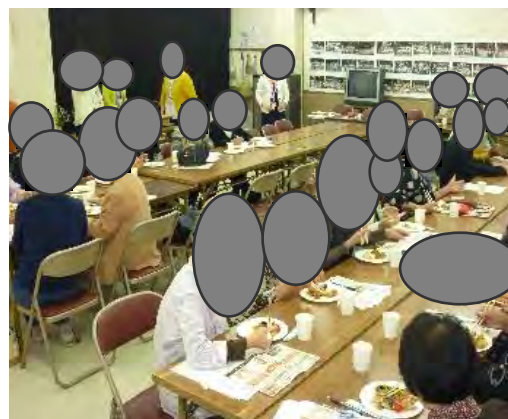
＜地域ケア会議の成果＞

①「わがまち健康教室 in 二子町」の開催

- ・普段地域の行事に参加していない方が参加した
- ・集いの場を継続したいという希望があがった

⇒介護予防講師派遣事業を利用して、1 月からも集いの場を継続することが決まった。

② 町内の代表者や地域住民と、共に考え計画したことそのものが、地域づくりの必要性を意識づける第一歩となった。



＜今後の目標＞今後は、住民同士が自ら進んで続けられる介護予防を目指すことが出来るよう支援していきたい。また、認知症高齢者や買い物困難者が増えることが想定されるため、今回作った足掛かりをもとに、住民が主体となり「わがまちづくり」に取り組む意識を育てていきたい。

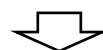
＜地域包括ケアシステム構築にむけての課題＞

多くの町内で課題にあがすることは・・・

町内会に入っていない人、孤立している人、身寄りのない人、認知症でひとり暮らし…。



地域ケア個別会議を積み重ねて、



地域ケア会議を開催して、地域課題を明らかにして普遍化させることが必要と考える。



©Kasugai City 2008

書のまち春日井「道風くん」

平成28年度地域ケア会議報告書



平成29年3月

春日井市 健康福祉部

地域福祉課 地域包括ケア推進室

愛知県春日井市鳥居松町5丁目44番地

電話：0568-85-6187

地域包括支援センター（市内10箇所）